

認定NPO法人フローレンス

アニュアルレポート 2016

ANNUAL REPORT 2016



新しいあたりまえを、すべての親子に。

Florence

認定NPO法人フローレンス

2015年4月よりスタートして2年 「障害児訪問保育アニー」

これまで保育園に入れなかった重症心身障害児や医療的ケア児のための、日本で初めての訪問保育事業です。保育スタッフが家庭に伺いマンツーマンで保育するため、慣れ親しんだ環境でそれぞれにあった保育と訪問看護サービスを受けることができ、障害児の保育不足問題を解決する一端を担います。皆様からのご寄付はアニーをより多くの家庭に届けるため、スタッフの採用や人件費、研修費用等に活かされています。テレビ局で管理職として働きながら、「障害児訪問保育アニー」に5歳(2017年現在)になる娘さんを預けているお母さん、丸茂礼さんはアニーの利用者第一号です。2016年にお話を伺った様子を紹介します。

娘は、約4ヵ月の早産で、出生体重487gの超低出生体重児として生まれました。NICUに10ヶ月半入院し、呼吸器と酸素を持って退院しました。それから一年半の在宅治療を経て、2歳半のときには、呼吸器から離脱することができました。酸素を使わずに呼吸も安定した状態で過ごせるようになったので、夏ごろから翌年4月の復職を目指し、保育園探しを始めましたが、その時にはまだ、経管栄養のチューブがついていました。「保育園で過ごす時はチューブからの注入はなし、朝と夜に自宅で注入する」という方法を提案し、娘と共に何園もの保育園に入園相談に行ったものの、「チューブがついている場合は受け入れられない」と全て断られてしまいました。娘は保育を受けることができない、という絶望的な状況下、



Mission 親子の笑顔をさまたげる

復職をあきらめかけていたのです。保育園に断られ続け、下の子の育休をつないでしのいでいたものの、精神的、肉体的な負担は想像以上に大きく、4年間の育休期間はあっという間に過ぎていきました。このまま復職を諦める覚悟を固めた頃、たまたまフローレンス駒崎代表のFacebook記事で「障害児向け訪問保育事業を使いたい方はいますか?」という問いかけがあり、藁をもつかむ思いで手をあげました。そこからヒアリング等幾重のハードルを越え、2014年、フローレンスの働きかけにより居住自治体で訪問型保育事業をスタートすることが決定し、晴れて利用者第一号となったのです。これにより2015年4月下旬の職場復帰に間に合わせることができました。

アニーはものすごく画期的な素晴らしい事業だと思います。特に娘のように医療的ケアが必要であったり、保育園の何歳児という決まった枠にはまらない、個別な対応が必要な子にとって、保育スタッフに自宅に来ていただき、なおかつ訪問看護の分野でもフォローしていただける事は未だかつてない内容です。なおかつ8時間という長時間保育が可能ということは、仕事に戻りたくても戻れなかった障害児を持つお母さんたちの希望になると思います。また何よりも、娘自身がアニーの保育スタッフさん達にとっても愛されており、また娘も保育スタッフさん達を心より信頼している。きっとアニーは、将来的には「何でもままでこのような事業がなかったのかしらね?」とみなさんから言われるような、全国にあってあたりまえの事業になると確信しています。

フローレンスの病児保育サービス 「ひとり親支援プラン」

のべ1500名以上の方による寄付を原資としたこのサービスを利用し、仕事と育児に奮闘してこられた、母子家庭のお母さんからいただいた感謝の言葉を紹介します。

フローレンスを知ったのは子どもが熱を出し、小児科で順番待ちをしている時の事でした。まさか?自宅に来て看護?こんなに安く?子どもが一歳になった頃に離婚。育休中の職場に戻る予定が育休切りにより辞職に追いやられ退職。やっとの思いで再就職と同時に子どもの入園。心身共にクタクタな親子を園での感染症が…。フローレンスのシステムはとても分かりやすく、すぐに入会出来ました。子どもと二人で何とかやっていこう!会社に迷惑をかけられない。休めない。休んだら居づらくなる。でも看病もしたい…



とても苦しい気持ちをフローレンスは救ってくれました!初めて隊員さんに来て頂いた日はとても感動しました!偶然ですが私の母と同じ名前の隊員さんだったので、特に記憶があります。仕事が終わって自宅に帰って、隊員の方に子どもの一日の様子を報告されて「こんなに手厚く看護して下さるなんて!」ととても有難くて、涙が出てしまいました。それからは毎月のように色んな病気で休む事が多い子でしたが、いつでもフローレンスの隊員さんが来てくれると思うと気持ちが楽になりました。今の会社を続けられているのは皆様のおかげです。私達を救って頂いた方々のご寄付に感謝します。それからフローレンスの隊員の方々、事務所の方々、本当にお世話になりました。ありがとうございました。



社会問題を解決する 皆さまのご支援で、 また一歩、課題解決が進みました

2016年4月スタート フローレンスの「赤ちゃん縁組事業」

日本では2週間に1人、虐待や遺棄により産まれたばかりの赤ちゃんが亡くなっています。背景の一つとしてあるのは、様々な事情で出産しても赤ちゃんを育てることができないお母さんへの社会的なサポート不足です。一方で不妊治療や子どもを授からず悩む夫婦もいます。赤ちゃん縁組事業では、産みのお母さんが希望された場合、特別養子縁組制度によって子どもを望む養親と赤ちゃんが新しい家族になる支援をしています。現在、行政からの助成が一切ない本事業は皆様からのご寄付を原資として運営しています。「にしん相談ホットライン」や養親研修、ソーシャルワークに係る運営費へのご支援を、これからもよろしく願います。事業1年目は3組の委託がありました。お子さんを迎えた1組のご夫妻からコメントをいただきましたので紹介します。

娘が私たち夫婦のもとに来てから9ヵ月。「生まれましたよ。お迎えに来てください。」という1本の電話から、私たちの生活は娘を中心に動いています。あわただしくはありますが、楽しい毎日です。急にしみじみと「私たち、家族なんだなあ」と幸せな気持ちになることも。娘に会わせてくれたフローレンスさんには本当に感謝しています。娘が家に来てからも、諸手続きのフォローをしてくれたり急な生活の変化や慣れない育児で精神的にまいっていないか声をかけてくれたりととてもお世話になっています。これからももっともっとあわただしくなって色々悩むこともたくさん出てくると思います。それでも一生涯懸命娘を愛し育てていこうと思います。ありがとうございました。

私たちは、社会変革のイノベーター集団としてこれからも挑戦し続けます。

Vision

みんなで子どもたちを抱きしめ、
子育てとともに何でも挑戦でき、
いろんな家族の笑顔があふれる社会

病児保育問題／ひとり親家庭の貧困



フローレンスの
病児保育

日本初の共済型・訪問型の病児保育事業を2004年に開始し、病児保育の実績はのべ47,000件を超えました。また、ひとり親家庭に安価に病児保育サービスを提供する「ひとり親支援プラン」はこれまで約10年でのべ1,500名を超える寄付会員の皆さんによって支えられています。



赤ちゃん縁組

赤ちゃんの虐待死問題

虐待死する子どもの半数以上は0歳児です。望まない妊娠など、虐待につながりやすいケースの妊娠相談にのり、どうしても育てられない場合には子どもを望む夫婦に赤ちゃんを託す「赤ちゃん縁組」(特別養子縁組)により子どもの命を救います。

Florence

認定NPO法人フローレンス

私たちの
取り組む
社会問題



障害児訪問保育アニー



障害児保育園ヘレン

障害児保育問題

障害の有無に関わらず誰もが保育を受けられ、その保護者が当たり前「働く」ということを選択できる社会の実現を目指し、「医療的ケア(=経管栄養、たんの吸引、胃ろう等)」が必要な子や、障害・疾患が理由で保育園に入れない子を長時間・母子分離で預かる「障害児保育園ヘレン」と「障害児訪問保育アニー」を運営しています。



こども宅食

とどく、つながる、みらいのために

子どもの貧困問題

日本は主要先進国の中でも「子どもの貧困率」が極めて高い国です。これは相対的貧困率と言われるもので7人に1人の割合で存在し現在増え続けています。食事に偏りがある、周りの子どもが持っているものが買えない、教育や経験が不足し低学力となるといった課題解決のため、ロビイングや新規事業に取り組んでいきます。



おうち保育園



みんなののびる
つくる保育園

待機児童問題

2010年にスタートし日本の待機児童問題の解決モデルのひとつとなった小規模認可保育事業「おうち保育園」。現在は東京都内、仙台市内に合わせて17園を運営しています。また、おうち保育園の卒園後の受け皿を担う連携先として初の認可保育所を開園し、新たな保育にも挑戦しています。

働き方革命事業

「子育てとともに何でも挑戦でき、いろんな家族の笑顔があふれる社会」というビジョンの実現のために、自らの組織もさまざまな取り組みを実践するとともに、社外にも発信しています。

みんなで社会変革事業

親子に関わる社会問題をまずは広く知ってもらうため日々の情報発信に力を入れています。併せてメディア出演や講演活動、イベント企画、政策提言も行い、社会問題を生み出す構造を変えるためのムーブメントを醸成しています。

赤ちゃん縁組事業部スタート そして家族の誕生

2015年クラウドファンディングで1400名もの方にご支援いただき、2016年4月、ついにフローレンスの新規事業「赤ちゃん縁組事業」が立ち上がりました。若年、貧困、DV、障害など社会的に弱い立場にいる女性が予期せぬ妊娠をした場合、誰にも相談できず出産し育てられず赤ちゃんが死に至るケースが後を絶ちません。そんな女性の相談に乗り、安全な出産をサポートしながら、赤ちゃんの家庭養育を「特別養子縁組」制度で支える事業です。2016年度、

3組の赤ちゃんが子どもを望む養親の元を迎えられました。一方、ソーシャルワークが欠如したあっせん団体も現れたことから、フローレンスが呼びかけ人となって「日本こども縁組協会」を立ち上げロビイングをし、2016年12月特別養子縁組あっせん法案が成立しました。赤ちゃんの命を守り、実母のリスタートと赤ちゃんを望む方を支援する特別養子縁組を日本に広めていきたいと思ひます。



障害児訪問保育アニー 初の卒園式

2017年4月でサービスインからおかげさまで2年を迎えることができた「障害児訪問保育アニー」。障害のあるお子さんの自宅に保育スタッフが訪問して、保育園と同様、保護者がお仕事から帰宅するまでお預かりする日本初のサービスです。3名のお預かりから始まった事業が、今では東京都区内で18人(5月現在)に

訪問保育をお届けしています。そんなアニーのサービスを経て、6歳になった女の子が3月無事卒園されました。親御さんはお仕事を辞めずに続けることができ、多くの人のサポートによって娘さんが成長されたことを喜んでいらっしゃいました。



みんなの未来をつくる保育園東雲開園

他者に思いやりをもって接することができる子ども。自分の意見を持ち、行動できる子ども。言われたことをただやるのではなく、その意味を考え、楽しみながら取り組むことができる子ども。【みんなの未来をつくる人】。そんな子どもたちを育てる保育園が2017年4月に開園しました。

認可保育所として初めてピースフルスクールプログラム(オランダで開発されたシチズンシップ教育プログラム)を取り入れた0~5歳児計54名定員の保育園です。6月に開園した「障害児保育園ヘレン東雲」は同じビルの1階です。「おうち保育園すかも」同様に交流保育も行っています。



2016→2017 FLORENCE TOPICS

皆様のご支援のおかげでたくさんの親子へのサポートが実現しました!

障害児保育園ヘレン 「すがも」「経堂」「東雲」開園

障害児保育園ヘレンは2016年豊島区「すがも」、世田谷区「経堂」の2園を開園しました。周産期母子医療センターの認定を受ける国立成育医療研究センターがあり、保護者から要望の高かった世田谷区では、区長自らがヘレン荻窪を視察された上で区の「子ども子育て総合支援センター」2階にヘレンとフローレンス

の運営する一時保育室「ほっとステイカムパネルラ経堂」を誘致して下さいました。また、去る2017年6月には江東区「東雲園」が開園しました。開設資金や福祉送迎車には、皆様からのご寄付を使わせていただいています。各地域にあたりまえのインフラとなるよう、今後ともご支援をお願いいたします。



おうち保育園、 東京と仙台に続々開園

小規模認可保育事業「おうち保育園」は、深刻な待機児童問題に対するスピーディな解決手段のひとつとして各地に開園しています。「おうち保育園すかも」では障害児保育園ヘレンと同じ敷地内で健常児と障害児が共に育つ交流保育を行ったり、仙台では初の企業主導型保育園にも挑戦しています。おうち保育園は現在東京都内14園、仙台市内3園となりました。



ひとり親サポート隊員のべ1500名以上、 のべ800名以上を支援

ひとり親家庭の収入減や失職は、子どもの貧困という社会課題に即結します。ひとり親家庭に低価格でフローレンスの病児保育サービスを提供する「サポート隊員(寄付会員)制度」は2008年にスタートし約10年でのべ1500名以上のサポート隊員の皆さんへのべ800名以上を支援していただいています。フローレンスには、連日サポーターの皆さんへの感謝の声が届いて

いますので、今後もメールニュースなどで紹介していきたいと思ひます。2016年クリスマスには支援中のご家庭に直筆、手作りのクリスマスカードをお届けしました。230人もの子どもたちと親御さんにサンタになりきってメッセージを書いて下さったのは、ボランティアに協力下さった寄付会員の皆さん。子どもたち、親御さんからたくさんの感謝のお返事が届きました。



2017年度の 新規取り組みについて

待機児童レスキュー隊

待機児童対策に取り組む渋谷区からの委託を受け、待機児童となってしまったお宅に訪問保育を提供するサービスをスタートします。

様々な保育が一同に

2017年10月、渋谷区初台にフローレンス初のビル誕生です。障害児保育園ヘレン、病児保育室、みんなの未来をつくる保育園、小児科が一体となった日本初の保育医療モールです。

子ども宅食

子どもの貧困問題の解決策のひとつとして、子育て中の貧困家庭に食品を届けるプロジェクトです。行政や他のNPO団体との協働で始動します。

寄付者の声



牧 和之助 様
マニユライフ生命
常務執行役員

全ての親子に笑顔を届ける社会変革に参加できることは、すばらしい経験です。世界を変えてきたキング牧師、ガンジー、ジョブス。皆とは違う未来を見て、人々を巻き込みながら、最後はその世界観を当たり前なものにしました。フローレンスも同じ。みんなで一緒に、新しい当たり前に向かって、前進あるのみ!



青野慶久 様
サイボウズ株式会社
代表取締役社長

障害児が保育を受けられない、障害児の母親が仕事を続けられないという問題は極めて深刻だと感じ、アニーのクラウドファンディングに参加したことがフローレンスへの寄付のきっかけです。障害児保育問題を世の中の人に知ってもらいたいのと、持続可能なビジネスモデルを確立し全国的な解決に向かうことを願っています。

フローレンスを寄付や助成金で 2016年度応援して下さいました 法人様一部ご紹介

NPO、民間の枠を超えてソーシャルインパクトを起こすパートナーとして、たくさんの法人企業様にお力添えをいただいています。

- アクサ生命保険株式会社
- インヴァスト証券株式会社
- ウエダジュエラー
- エンパワー・サポート株式会社
- 関西電力
- 株式会社CROSSY
- gooddo株式会社
- 小杉ママのチャリティーリユース
- 株式会社サザビーリーグ
- 株式会社the liorect
- シングル10株式会社
- ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会
- 株式会社セールスフォース・ドットコム
- 合同会社西友
- ソフトバンク株式会社
- ソーホージャパン株式会社
- 宝紙業株式会社
- 鳥居薬品株式会社
- 鳴海製陶株式会社
- 日本オラクル株式会社
- 株式会社バリューブックス
- 株式会社FINC
- 三菱樹脂株式会社
- 一般財団法人 村上財団
- ヤフー株式会社 他
- (50音順)

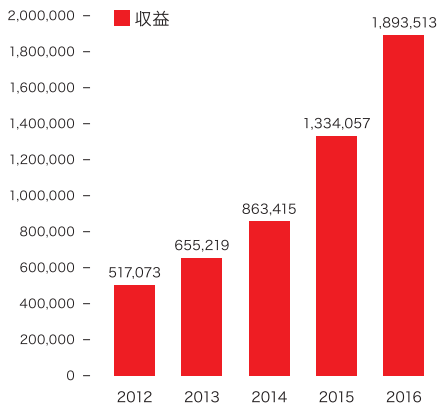
データの前提

NPOはあくまでも「社会問題の解決」を存在意義とし、利益は継続的な活動をして行くための手段です。とはいえ責任を持って持続可能な運営を行うためには、企業と同様に財務的健全性を度外視することはできません。フローレンスはそうした財務的健全性を保つため、本ページにおいて財務情報の開示を行い、経営の透明性を高めてまいります。新NPO会計基準に従っております。ご了承ください。

総括

2016年度は、収入が前年比42%増、正味財産増加額は87,295千円でした。収入増の主な要因は、既存の病児保育事業が順調な伸びを維持していることに加え、おうち保育園が東京・仙台で3園開園、障害児保育園ヘレンが2園開園したことで、事業収入及び寄附が増加したことが挙げられます。

収益

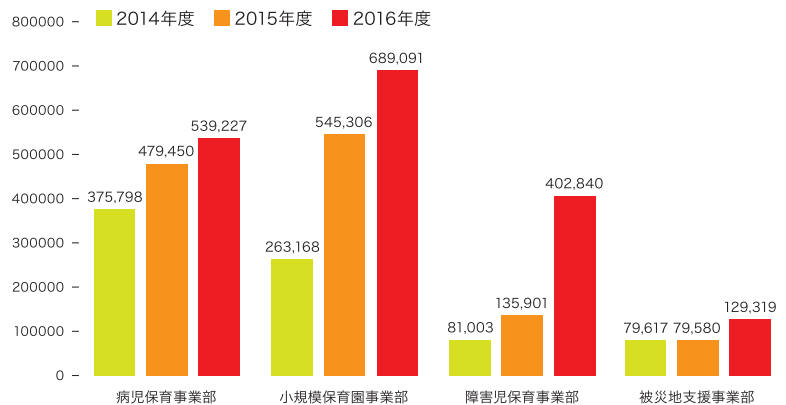


収益

年度	2012	2013	2014	2015	2016
収益	517,073	655,219	863,415	1,334,057	1,893,513
昨年度対比	116%	127%	132%	155%	142%

単位:千円

事業部別収益の昨年度対比



事業部別収益の昨年度対比

	病児保育事業部	小規模保育園事業部	障害児保育事業部	被災地支援事業部
2014年度	375,798	263,168	81,003	79,617
2015年度	479,450	545,306	135,901	79,580
2016年度	539,227	689,091	402,840	129,319
昨年度対比	112%	126%	296%	163%

単位:千円

個別事業部のレビュー

病児保育事業部

利用会員が増え前年比12%成長でした。昨年度から続いている「入会希望に対し、こどもレスキュー隊員の採用・育成が追いつかない」という状況を解決するため、採用・育成に注力しましたが、まだ十分ではなく、入会数を制限しています。2017年度も引き続き重点課題として取り組んでいきます。

みんなで社会変革事業部/働き方革命事業部

みんなで社会変革事業部では、編集部を設置しオウンドメディアやSNSを活用し、活動の広報を強化。また寄付月間対応やスマートニュース社との協業等を進めました。働き方革命事業部は、働き方革命の実践を通じて、働きがいのある会社(GPTW)女性ランキング2位を獲得しました。

障害児保育事業部

「障害児保育園ヘレン」は2016年7月に豊島区巣鴨に、2017年2月に世田谷区経堂に新たに開園し、「障害児訪問保育アニー」は4区(北、板橋、文京、目黒)で新たにサービスインしました。2事業で合わせ41名(ヘレン24名、アニー17名)の医療的ケア児、重症心身障害児のお預かりを実現しております。2017年度は6月江東区に4園目となる「障害児保育園ヘレン東雲」、10月渋谷区に5園目となる「障害児保育園ヘレン初台」を開園させ、「障害児訪問保育アニー」は3区(中野、江東、中央)で新たにサービスインします。

小規模保育事業部

子ども・子育て支援新制度施行後2年目。引き続き待機児童問題解決のため、西すがも園移転による定員増、待機児童の多い杉並区にえいふく町園を開園の他、既存園で弾力化を実施しました。2017年度には、おうち保育園卒園後の受け皿を担う連携園として初の認可保育所を開設し3~5歳児の新たな保育の形を築いていきます。

赤ちゃん縁組事業部

2016年度は産んでも育てられないと悩む妊婦の相談援助活動、養親希望者向け説明会に注力。その結果、初年度ながら3人の赤ちゃんの特別養子縁組のマッチングが成立しました。また、複数の団体で「日本こども縁組協会」を結成し、政策提言を通じて「特別養子縁組あっせん法」成立(2016年12月)に貢献しました。2017年度は企業等の助成も決定しており、困窮している妊婦の生活支援、養親希望夫婦向け研修の実施など支援の拡充に挑戦していきます。

被災地支援事業部

被災地の経済復興を牽引する仙台市で待機児童が増加している現状を解決すべく、2015年4月仙台市青葉区に小規模認可保育所「おうち保育園」を開園しました。2017年度以降も、待機児童の現状をみながら、求められる地域への新規開園準備を行います。

フローレンスに関する2016年度主なメディア掲載・放映

AERA「保育園落ちても質は落とせない」/TBSひるおび生出演「保育園騒音問題」/NHK「給付型奨学金創設求めネット署名」/InRed「保育園落ちた」/FQJAPAN「待機児童対策保育の現場から」/広報会議「事業部横断の“編集部”組織」/日経「NPO社会起業家が新公益連盟設立」/朝日新聞「世界一こどもを育てやすい国にしよう 刊行対談」/朝日新聞、北海道新聞「医療的ケア児支援を」/文藝春秋「会社も社員も得する働き方改革」/NHK WORLD/TBS報道特集「医療的ケア児のサポート」/読売新聞医療ルネサンス「医療的ケア児/AERA「障害者と共に生きる」/ハーバードビジネスレビュー「未来を創るU-40経営者」/CHANTO!「後悔しない!明るい保活」/TBS「特別養子縁組あっせん法案成立」/毎日新聞「医療的ケア児と保育所」/日経「ヘレン経堂に西友寄付福祉車両」/プレジデント「四足の草鞋を履くイクメン」/朝日新聞「障害児保育園ヘレン」/NHK「復興サポート 仙台の小規模保育例」/ニッポン放送ラジオ「待機児童問題」他多数 ※日経DUAL、毎日新聞、ソトコト、NHKラジオ、東京MXTVモーニングクロス レギュラー出演および連載

誰もが安心して子育てできる社会のために、皆様のご支援をお待ちしております。



皆様のご支援が、未来の社会を変える第一歩につながります。

今、問題に苦しむ人を助けると同時に、子どもたちにより良い社会を残すため、どうか、ご支援をお願いします。

毎月定額の寄付で応援する フローレンスマンスリーサポーター

→ 詳細はこちらから
<http://florence.or.jp/lp/monthly/>



フローレンスは病児保育をはじめ、赤ちゃん虐待死問題、障害児保育問題、待機児童問題など、子ども・親子を取り巻くさまざまな社会問題の解決に挑戦しています。しかし、課題は日々増え、複雑さを増していきます。今こうしている間にも……。あなたの、ほんの少しの行動で、悲しむ親子や子どもたちが助かります。手を差し伸べてほしいのです。月3,000円〜であなたも社会課題解決を、私たちと一緒に。

■プランは4つ。その都度、自由な金額でのご寄付もありがたくお受けしております。

3,000円/月

5,000円/月

10,000円/月

15,000円/月

毎月、継続的にご支援いただけることで、活動を安定して運営することができます。皆さまのご協力をよろしく申し上げます。

ひとり親家庭の子育てと就労継続を応援する ひとり親家庭支援サポート隊員

→ 詳細はこちらから
<http://florence.or.jp/lp/support-single/>



母子家庭の多くが「貧困状態」に置かれています。ひとり親家庭は、低収入のうえ、子育ても仕事もすべて一人で抱えざるをえません。「子どもの急病時」に仕事を休むことはままならず、失業のリスクが常に存在します。私たちはこの問題を、病児保育サービスによる「ひとり親家庭支援事業」で解決していきます。どんな境遇の子どもも笑顔で暮らせる社会を実現するために。

■プランは5つ。その都度、自由な金額でのご寄付もありがたくお受けしております。

ほし組

1,050円/月

ほし組隊員8名で
ひとり親家庭1世帯をサポートできます。

つき組

2,100円/月

つき組隊員4名で
ひとり親家庭1世帯をサポートできます。

ちきゅう組

4,200円/月

ちきゅう組隊員2名で
ひとり親家庭1世帯をサポートできます。

おひさま組

8,400円/月

おひさま組隊員1名で
ひとり親家庭1世帯をサポートできます。

ぎんが組

16,800円/月

ぎんが組隊員1名で
ひとり親家庭2世帯をサポートできます。

自由な金額の寄付で応援する 単発寄付

→ 詳細はこちらから
<http://florence.or.jp/donate/>



フローレンスマンスリーサポーターのページより「今回のみ寄付をする」を選択。

定額・連続ではない、その都度、自由な金額でのご寄付もありがたくお受けしております。クレジットカードまたは銀行振込にて承ります。

その他の支援方法

例えば数百円からのデイリー支援

→ 詳細はこちらから
<http://florence.or.jp/donate/>



不要になった本や服、余ったポイントなど…あなたならではの気軽な方法で。

振込口座

三菱東京UFJ銀行 深川支店 普通預金1784434
特定非営利活動法人フローレンス

ゆうちょ銀行 口座記号番号 00100-7-773944
加入者名 NPO法人フローレンス

※口座名義は「トクヒ）フローレンス」と表示されます。※お振込者名の前に「キフ」とご明記ください。(例)「キフヤマダタロウ」

※詳細はフローレンスのホームページをご覧ください。 ※都度の寄付もありがたくお受けしております。

※フローレンスに対するご寄付は「寄付金控除(税額控除)」の対象となり、確定申告を行うことで寄付金額の最大50%が税金から控除されます。

※遺贈・相続財産の寄付についてもご相談ください。